

## 次の総選挙が楽しみになってきた！（声明）

～市民と野党の共闘を進化させ、安倍政権の暴走に終止符を～

2019年参議院選挙の開票結果が判明しました。選挙区では私たちが全力を傾注して応援した藤井みきお候補は、残念な結果に終わりました。しかし、得票数だけでは測り知れない大きな希望と可能性、克服すべき弱点等を体験した選挙戦であったと考えています。

政権与党候補者に、市民と野党の統一候補が1対1で果敢に挑戦しました。和歌山県の国政選挙史上で画期的な意義を持つものです。全国的にも50%を割る低投票率、知名度を浸透させる準備期間の短さなどの悪条件が重なりました。されど、藤井みきお候補は、人権と平和の弁護士・トライアスロンのアスリートとして、県内全域を自転車で走破し「安倍政治の暴走を止めよう!!」と有権者へ情熱的に語り続けました。藤井さんの掲げた「11の政策」、候補者としての人間性・和歌山愛は、現職候補の滞在1日の選挙戦を凌駕し、日増しに支持が広がりました。連合をはじめ労働組合、推薦・支持を行った政党、各地の「9条の会」、多様な市民団体、女性団体の懸命な活動に敬意を表したいと思います。

このような最良の候補者に恵まれながらも選挙に敗れたのは、候補者個人というよりは藤井さんを野党統一候補として支え運動したものの、私たちの力不足によるものです。

全国的な結果では、自公維の改憲勢力が2/3を失ったことは大きな意義があります。1人区では10人が勝利し、野党統一の力を改めて示すことができました。自民党は9議席減で単独過半数を取れず、比例区で前回比240万票減、公明党は100万票減の後退です。低投票率の中でも、今回の選挙が安倍政権の勝利とは到底言えません。一方、山本太郎氏の率いる「消費税廃止」に焦点化した「れいわ新選組」が旋風を巻き起こしました。9条改憲は許さない、消費税増税反対、年金等社会保障の拡充を求める市民と野党の共闘への期待は広がりました。これらの成果こそ、次の総選挙に希望をつなげるものです。

改憲勢力の暴走は、さらに加速するかもしれません。しかし、それは安倍政権の終わりに直結する道です。傲慢で高圧的な政権運営、嘘とごまかし、国民生活を破壊し人権と平和民主主義に敵対する政府は必ず滅びます。低投票率現象は民主主義の危機です。国民の政治への諦め意識等には、敢然と立ち向かう伝える力と果敢な行動力が不可欠です。

市民連合は藤井さんの「11の政策」の魂を継承し、決意新たに闘い続ける覚悟です。さらに、投票率の向上や「統一」の在り方等の選挙戦略の質を進化させるには緻密な検証が不可欠です。市民と野党の共闘こそ宝。その種をまき、水を与え続ける決意です。

いよいよ安倍政権の暴走にピリオドを打つ時です。次の総選挙が楽しみになってきた！

2019年7月22日

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める「市民連合わかやま」

共同代表 豊田泰史、花田恵子、堀内秀雄、松浦攸吉、由良登信